



TITLE:

肩胛部ノ腫瘍(臨床講義)

AUTHOR(S):

磯部, 吉右衛門; 青柳, 安誠

CITATION:

磯部, 吉右衛門...[et al]. 肩胛部ノ腫瘍(臨床講義). 日本外科宝函 1926, 3(2): 505-507

ISSUE DATE:

1926-03-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/199947>

RIGHT:

肩胛部ノ腫瘍(臨床講義)

京都帝國大學醫學部教授

醫學博士 磯部喜右衛門 述

青柳安 誠筆記

先ヅ患者ノ病史ヲ讀ンデミル。

岡○某、農、五十二歳

遺傳的關係 父ガ卒中デ倒レタ他ニ言フ程ノモノハナイ。

既往症 幼時ヨリ健全デ著患ヲ知ラナイシ、マタ花柳病ヲ否定シテキル。尙ホ患者ハ以前ハ烈シイ酒飲家デアツタガ、一年前ヨリ全ク禁酒シタ。煙草ハ相當量ヲノムト。

現在症 何等ノ誘因ナシニ約四五ヶ月前カラ左肩胛部ニ緊張ノ感アリ、ソノ後幾バクモナクテ同所ニ示指頭大ノ無痛性ノ腫物ノアルニ氣ヅイタ。而モ該腫物ハ漸進的ニ増大シ、二ヶ月後ニハ既ニ鶯卵大トナツタ。次イデ不快感ヲ伴ツタ鈍痛ガ屢々現ハレ、特ニコノ三週間前カラ更ニ腫物ハ急ニ増大シ從ツテ不快感並ビニ鈍痛ノ度モ増加シ、尙ホ最近デハ少シク羸瘦シテ來タト。便通ハ一日一行。食欲ハ普通ダガ疼痛ノタメ睡眠ヲ妨ゲラレルコトアリト。

一般所見 患者ヲ診ルト中等大デ體格モヨク營養モ可良。皮膚粘膜共ニ貧血性ヲ認メナイシ、マタ浮腫モナイ。脈搏呼吸ハ尋常デ淋巴腺ノ腫脹ハ何處ニモ存在ナク肺、心臟等ニモ異狀ハナイ。腹部モ外見上全ク變化ヲ認メナイガ觸診スルト右ノ乳線上デ季肋下一・五浬ノ部ニ普通ノ抵抗ヲ有スル肝縁ヲ觸レ、右ノ腎モ同ジク觸レル。四肢ニハ全ク異狀ナク尿ニモ亦タ病的變化ガナイ。

局所所見 左ノ肩胛脊部ニ小兒頭大ノ膨隆ガアリ其形ハ橫卵形デ横ハ一八浬。縦ハ一二浬デアル。表面ハ畧々中央デクビレ左右二ツノ膨隆ニ分レテキル。膨隆部ノ皮膚ニハ特ニ靜脈怒張、搏動、色素沈着等ヲ認メナイ。然シ皮膚ハ少シク緊

張シ平滑トナリ、光澤ヲ伴ツテキル。觸診シテモ局所ニハ温度ノ上昇ガナイ。腫物ハ視診ニ於テノ様ニ小兒頭大デ、皮膚トノ癒着ハナク、表面ハ平滑デ、略々ソノ中央デ縱ニ走ル淺イ溝様ノモノヲ觸レ、全體ガ二ツニ別レテキル。ソノ境界ハ稍々明瞭デ下面ハ肩胛骨ト癒着シ、肩胛骨ヲ動セバ腫物モ共ニ動ク。即チ胸廓トハ癒着シテキナイ。ソノ硬度ハ平等デア
ルガ精密ニ検査スルト中央部ハ稍々硬キモ一般ニハ軟力性軟デアツテ、恰モ波動ヲ證明シ得ル様デアル。腫物ニハ壓痛ガ
ナク頸部及ビ腋下腺等ニ變化ハナイ。

血清ワ氏反應陰性デ、ソノ他血色素、血球數、白血球像等ニモ變化ガナイ。

以上ノ所見カラコノ物ノ急性炎症性デナイコトハ明カデアルカラ、コノ物ハ慢性炎症性ノ物カ或ハ真正ノ腫瘍デナケレ
バナラナイ。

マヅ慢性炎症性ノ物トスレバソノ硬度ハ軟力性軟デ波動様ノモノヲ證明スル點カラ第一ニ寒性膿瘍カ或ハ流注膿瘍ノ
如キモノヲ考エテヨイ。而モ是等ハヨク肩胛關節ソノ他肩胛骨等ノカリエスノ際、マタハ頸部特ニ後頭骨ト第一頸推關節
部ノカリエスノ際ニ現レルモノデアル。ガ、コノ患者ノレントゲン像ハ明ニカ、ル部ノ原發病竈ヲ否定シテキルト同時
ニ、患者ノ一般狀態ハ頗ル良好デ、結核性ヲ思ハセル何物モナイノデアル。マシテ況ヤ試験的穿刺ヲ行ツテモ只血液
ガ出タバカリデ膿ハ出ナカツタ。故ニモシコノ腫物が炎症性ノモノデアルトスラバ之レハ護謨腫デアラエバナラス。
實際護謨腫ハヨクカ、ル所見ヲ持ツテ來得ルモノデアル。即チ相當ノ大キサデ軟イ點ナドハヨク似テキルガ只護謨腫
ノ際ハ中央ガ軟デモ之ノ周圍ハ硬イモノデアル。トコロガコノ患者ノモノハマヅ周圍モ比較的軟デ、剩ヘ患者自身ガ微毒
ヲ否定シテ居ル。ノミナラズ、血清ワ氏反應モ陰性デアル。

マタ腫物ノ試験的穿刺ノ結果ハ鮮紅ナ血液ノミガ出テ來ルガ、護謨腫デアレバ壞死物質ヲ穿刺スル譯デアルカラ血液
ハ出ナイカ、出テモ僅少デアル。以上ノ事實カラコノモノ、護謨腫デナイコトモ了解ガ出來ヤウ。

尙ホ搏動ヲ認メナイカラ此ノ腫物ハ動脈瘤ノ様ナモノデナイ事ハ勿論明カデアル。

果シテ然ラバコノモノハ眞正腫瘍デナケレバナラナイ。腫瘍トシテハ脂肪腫ガヨク來ルガ、コレハ物ヲ擔フ人ナドニ多ク、從ツテ發生部位モ此ノ患者ノヨリハ上方デアルシ、又脂肪腫ナドハ何分ニモ良性ノモノデアルカラ、一定ノ大キサヨリ大キクハナラナイモノデアル。反之コノ患者ノ腫瘍ハ經過ノ上カラ見テ惡性ノモノデアラネバナラス。

カ、ル部位ニハ肉腫ガ好發スル。ソノ發生ニハ一度ダケノ外傷或ハ連續的ノ外傷等ガ誘因トナリ得ルガ、マタ全然誘因ノ認メラレ得ナイモノモアル。

肩胛骨骨膜カラ發生スル肉腫ハ多クハ紡錘形細胞肉腫デ、骨髓カラ發生シタモノハ巨態細胞肉腫デアル。然シ骨髓カラ發生シタモノデモ段々ニ骨實質ヲ壓迫シテ菲薄トナシ、遂ニハ骨質ヲ破壞シテ終フカラ此ノ腫物ノ様ナ大キサニナツテカラハ何處カラ出來タノカ解ラナイ。

肉腫ハ細胞ノ生長ガ迅速デ血管ガ多イタメ軟クテ假性波動ヲ呈スルコトガ多い。從ツテ試驗的穿刺ヲ行ヘバ、血液ノミガ出ルノデアルガ、コノ液カラ腫瘍細胞ヲ顯微鏡的ニ檢出シ得ルコトガ屢々アル。

マタ神經ヲ壓迫シテ疼痛ヲ起スコトモアルガ、然シ癌腫等ト異リ神經組織内へ浸潤シ行クノデハナクテ、只壓迫スルノミダカラ癌ノ時ノ様ニ烈シイ神經痛様ノ疼痛ハ來ナイ。緊張ノ感ノアルノハヤハリ生長ノ早イタメデアル。マタソノ爲ニ體溫ノ上昇サヘ經驗スルコトガ少クナイ。

此ノ患者ニハ轉移ヲ認メ得ナイガ、來レバ脊椎骨デアル。ソノ際ニハ壓痛ガ可ナリ強クテ脊椎カリエスト誤ラレルコトガ間々アル。又肋膜、肺等ニモ轉移ヲ造ルコトアルガ、淋巴腺ニハ餘リ轉移ヲ造ラヌモノデアル。

療法。關節マタハ上膊ニ及ンデキルモノハ上肢ト共ニ離斷スベキデアルガ、出來得ベクンバ肩胛骨ノ頸部ヲ殘シテ肩胛骨ノ部分的切斷ヲ行フノデアル。

附記。手術ヲ行ヒシニ幸ニ肩胛骨ノ頸部ハ未ダ侵サレ居ラザリシヲ以テ、頸部ニ於テ肩胛骨ヲ切斷シ、腫瘍ヲ摘出スルコトヲ得タリ。又タ顯鏡檢ノ結果、骨膜ヨリ發生セル紡錘形細胞肉腫ナリキ。